

保護者の皆様

大阪府立摂津支援学校

校長 藤井雅乗

令和5年度 「学校教育自己診断」実施と結果について（報告）

昨年10月に実施しました「学校教育自己診断」の集計結果がまとまりましたので、ご報告します。今後ますます充実した教育活動を展開していきたいと考えていますのでご協力をよろしくお願いいたします。

1. 実施時期・実施方法

【保護者】 10月中旬にさくら連絡網アンケートを配信。(11月初旬再送)

未登録者に用紙配付 10月末メ切(11月6日に延長)

【児童生徒】 10月下旬に用紙で実施 11月1日メ切

【教職員】 10月中旬にさくら連絡網アンケートを配信(11月初旬再送) 10月末メ切(11月6日に延長) 各学部入力チェック表回覧

2. 提出率

(過去3年の比較) ※G:Gフォームで回答 さ:さくら連絡網で回答 紙:用紙で回答 イ:イラスト版 文:文章版

	学部\年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
保護者	小学部	96.7%	104.2% (G93・紙 30/118名)	92.7% (さ 100・紙 2/110名)
	中学部	83.5%	91.7% (G70・紙 30/109名)	90.3% (さ 97・紙 5/113名)
	高等部	86.5%	88.5% (G62・紙 38/113名)	85.1% (さ 88・紙 9/114名)
児童生徒	小学部	17.8%	15.3% (118 /118名)	10.0% (111 /110名)
	中学部	66.0%	61.5% (131・文 36/109名)	67.3% (131・文 45/113名)
	高等部	75.9%	71.7% (127・文 54/113名)	57.9% (132・文 34/114名)
教職員		99.2%	98.6% (137/139名)	100% (141/141名)

3. 結果報告 (集計は学校HP内)

①保護者向け診断票 肯定的回答 (A.よくあてはまる+B.ややあてはまる)の割合について

()は昨年度の数値

	90%台	80%台	70%台	60%台	50%台	全項目数	全項目	R3	R4	R5
項目数	9 (6)	6 (12)	5 (3)	3 (1)	0 (4)	23 (26)	平均	85.4%	83.3%	84.0%

・肯定的な回答が60%台の項目		R3	R4	R5	経年比較
9	学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。	67.7%	69.4%	65.4%	-4
12	学校はパソコンやタブレットを使ってわかりやすい授業を行っている。(文言変更 R3:学習活動に、大型テレビ、パソコン、タブレット等のICT機器が活用されている。)	(67.0%)	59.3%	64.5%	+5.2
19	学校は、子どもが他の学校や地域の人と交流する機会を作っている。	-	59.6%	66.1%	+6.5

・肯定的回答が経年比較で+10ポイント以上の項目		R3	R4	R5	経年比較
8	いじめについて子どもが困っていることがあれば、学校に気軽に相談できる。(文言変更 R4:学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。)	67.7%	58.6%	72.8%	+14.1

- ・肯定的な回答の経年比較で-10ポイント以上の項目はなかった。
- ・(文言変更)のうち、12は特に大きく変更しているため経年比較の数値に()を付けている。
- ・「Eわからない・判断できない」が20%を超える項目は8「いじめ」、9「進路指導」12「ICT活用(1人1台端末)」、19「交流」で、全て昨年度より継続。

②児童生徒向け診断票

肯定的回答(文章版「A.よくあてはまる+B.ややあてはまる」、イラスト版「はい」)について
()は昨年度の数値

	90%台	80%台	70%台	60%台	50%台	40%台	全項目数
文章版	2(0)	9(7)	5(6)	0(4)	1(1)	0(1)	17(19)
イラスト版	6(3)	4(7)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	10(10)
イ、文 合併	4(0)	9(8)	3(7)	0(2)	1(1)	0(1)	17(19)

	R3	R4	R5
全項目平均	83.3%	78.4%	85.2%

・肯定的回答が経年比較で+10ポイント以上の項目		R3	R4	R5	経年比較
2	先生は、一人ひとりのことを大切に、よく理解してくれている。(イラスト2)先生は、一人ひとりのことを大切にしてくれますか。	91.0%	72.2%	87.6%	+12.6
9	世界の国々や、環境、私たちの暮らしについて、学習することがある。	80.3%	68.9%	83.5%	+14.7
14	給食の献立は工夫されていて、おいしく食べられる。	87.2%	80.0%	92.3%	+12.3
17	授業や行事で近くの学校や地域の人と交流することがある。	(R1) 68.8%	48.9%	59.0%	+10.1

- ・肯定的な回答の経年比較で-10ポイント以上の項目はなかった。
- ・17は肯定的な回答が50%台の項目

③教職員向け診断票 肯定的回答(A.よくあてはまる+B.ややあてはまる)の割合について

()は昨年度の数値

	90%台	80%台	70%台	60%台	全項目数
項目数	15(14)	10(15)	7(6)	2(4)	34(39)

全項目平均	R3	R4	R5
	88.2%	85.7%	86.9%

・肯定的回答が60%台の項目より		R3	R4	R5	経年比較
16	学校運営に、教職員の意見が反映されている。 (文言変更 R4:学校運営に、分掌部会や学部会、学年会などの会議の内容や教職員の意見が反映されている。)	75.6%	72.3%	69.7%	-2.5
21	教職員はPTA活動について理解している。 (文言変更 R4:教職員はPTA活動に協力している。)	73.5%	65.0%	67.6%	+2.6

④各診断票の横断比較について(学校HP内資料、及び「5.考察及び今後の課題」参照)

4. 意見について（別紙資料参照、HPの掲載はありません。）

いただいたご意見から抜粋して回答し、対応可能なものについては改善していく。また、ご意見、ご指摘、ご提案等は教職員全体で共有し、よりよい学校づくりに生かしていく。

5. 考察および今後の課題

- ①回答率について、児童生徒の小学部・高等部が下がっているが、自分で質問文を読み回答できる児童生徒を対象にしているため、年度によって変動する。教職員は6年ぶりに100%の回答となった。さくら連絡網の活用は効果があったのかもしれない。
- ②今年度は9月に第2回学校運営協議会で報告した「令和5年度学校経営計画」の「進捗状況」をベースに、保護者にも「進捗状況」を配付し周知に努めた。保護者の「Eわからない・判断できない」の平均値は昨年度と大きな変化はないが、昨年度30%台だった8「いじめ」12「ICT」は20%台に減少することができた。学校の取り組みについて引き続き「校長だより」等を活用しながら知らせる必要がある。

	R3 無回答	R4 Eわからない	R5 Eわからない・判断できない	経年比較
保護者	10.3%	11.2%	11.3%	+0.1
児童生徒	4.2%	11.7%	5.9%	-5.8
教職員	1.7%	3.0%	4.0%	+1.0

- ③保護者について、肯定的回答が昨年度50%台だった項目8「いじめ」12「ICT」19「交流（校外）」はいずれも肯定的回答が増え60%台以上になった。特に保護者が答えやすいように質問内容を変更した項目8「いじめ」は、「Eわからない・判断できない」の割合が-15.8ポイントと減少し、肯定的な回答が70%台と改善した。（下の表参照）
- ④児童生徒の肯定的回答は全体的に増加し、評価が回復した。児童生徒の評価は年度によって大きく変動する傾向があるため、数値だけでなく児童生徒の意見や保護者の回答や意見と併せて見守っていく。
- ⑤三者の横断比較において、教職員より-10ポイント以上認識の差があった項目は以下の通りで、児童生徒については昨年度8項目あったが今年度は1項目と改善している。

保護者について、8「いじめ」、9「進路指導」、12「ICT」は昨年度も認識の差があった項目で、昨年度よりは改善しているが引き続き情報発信が求められている。参観日以外にも参観していただけることの周知やHPや学校一斉メールの更なる活用を検討していく。9「進路指導」については、小学部保護者の「Eわからない・判断できない」が50%で肯定回答が43.1%と低いが、小学部教員の肯定回答は81.5%となっており、特に差が大きい。教員と保護者の質問内容が若干異なるため、一概に比較するのは難しいかもしれない。比較分析できるように、今後保護者の文言の変更も検討する。

また、今年度新たに13「給食について」も認識の差がみられた。ご意見にもある通り、試食会やHPに給食の写真を載せること等を通して給食の理解を深めていきたい。

児童生徒の17「交流（校外）」について、昨年度より交流を再開しており、今年度の評価は改善してきている（2ページ、3.②の表参照）。「Eわからない・判断できない」は16.7%と児童生徒の中では一番高く、中・高の交流活動の多くが診断表の回答後に設定されていることが影響しているのかもしれない。現在の取り組みを継続し、交流活動を定着させていきたい。

保護者		肯定的	否定的	わからない	教職員	横断比較
8	いじめについて子どもが困っていることがあれば、学校に気軽に相談できる。	72.8%	6.3%	20.9%	88.0%	-15.2
9	学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。	65.4%	7.3%	27.2%	83.8%	-18.4
12	学校はパソコンやタブレットを使ってわかりやすい授業を行っている。	64.5%	7.3%	28.2%	93.0%	-28.5
13	給食の食材や献立は、配慮・工夫されている。	85.0%	4.7%	10.3%	95.1%	-10.1
児童生徒		肯定的	否定的	わからない	教職員	横断比較
17	授業や行事で近くの学校や地域の人と交流することがある。	59.0%	24.4%	16.7%	73.9%	-14.9

- ⑥保護者、教職員の項目2「人権尊重（児童生徒理解）」では、ともに令和5年度の重点目標の90%以上となった。引き続き子どもたちの気持ちに寄り添い、カウンセリングマインドに基づいた教育活動を継続したい。
- ⑦児童生徒の項目10「いじめ」では昨年度より+8.3ポイントの81%と改善したが、令和5年度の重点目標とした90%には届かなかった。普段の学校生活で児童生徒の変化やいじめの兆候に気づくように努めていく。いじめアンケートでは過去の友人関係で「嫌だったこと」について書く児童生徒もおり、本校が安心できる居場所になるように見守っていきたい。
- ⑧教職員の項目4「学習評価」において、肯定的な回答が90.8%だが、令和5年度の重点目標である95%には届かなかった。3観点評価の理解が定着するように継続して取り組んでいく。
- ⑨教職員の項目13「ICT」は93%となっているが、令和5年度学校経営計画に記載のとおり「プランナー（主担者）である教員」に限定すると100%で達成している。今後も必要且つ効果的な場面で全ての教員がICTを活用できるように研鑽を積んでいきたい。
- ⑩教職員の項目29「授業力向上」では、昨年度より+3.9ポイントで70%台に改善したが重点目標とした90%には届かなかった。（次年度は項目の文言に「口頭によるフィードバック」も記載する。）
- ⑪今年度新設した項目について、「交流（校内）」は三者とも70%台となった。交流については児童生徒からも「小～高で交流会を開いたりして全校で絆を深められたらと思う。（抜粋）」との意見が出ており、全学部で交流の機会をもつことを検討していく。教職員の項目34「校内支援②（不登校）」は93%となった。支援部の不登校支援チームを中心に引き続き不登校支援について学校全体で取り組んでいく。

【今後の課題】

①学部間連携・教員連携

コロナで途絶えた学年・学部間のつながりを見直し、交流を活性化させる。学部間の交流活動が増えることで教員の連携も促進させ、校内研修等においても学部間・教員間の交流が持てるように工夫していく。

②教育課程

本校も11年目を迎え、児童生徒の増加と実態の変化や進路の多様化に合わせて教育課程の改訂が必要な時期が来ている。次年度は高等部を中心に教育課程検討プロジェクトチームを立ち上げ検討をすすめる。子どもたちに何が必要なのか、どんな力をつけたいのか、協同する力をつける場面はあるかなど、学習指導要領に即しながら検討していく。

③授業力向上

ティームティーチングにおける主担者へのフィードバックについて、教員間で授業の振り返り等の情報共有の時間が確保できるように、ノー会議デーの設定や業務の精選を継続していく。

④ICT の活用

1人1台の端末の活用推進のためのアクションプランは今年度で終了するが、より活用が進むように、ICT環境の整備や教員の活用能力の向上に努めていきたい。

⑤情報発信

さくら連絡網とブログの更なる活用をすすめていく。

6. 学校運営協議会より

○教職員の意見で「忙しい」「行事を減らす、見直す」などあるのが気になる。

○教職員項目16「学校運営に教員の意見が反映されている」17「各分掌、各部・学年の連携が円滑に行われている」の中学部、高等部がいずれも低いのが気になる。

○3、①保護者向け診断票の9「進路指導」が経年比較で-4になっているのが残念、要因は何か。

○保護者が意見を言える場は他にあったとしても、意見の欄は残してほしい。(2件)

7. 来年度の実施に向けて

○保護者への学校経営計画の進捗状況の周知は次年度も校長が行う。

○今年度は保護者の重複回答を避けるため、Googleではなく新規学校一斉メール「さくら連絡網」で実施した。回答率やご意見から、この方法を継続していき、経過を観察していきたい。

○項目内容について、答えやすくなるよう、継続して見直しを行う。意見欄について、電子化を機会としてなくしている学校もあるが、今後も意見欄を残し、学校運営の参考にしていく。